

妹島和世氏講演会「環境と建築」 Q&A

講演が終了し、引き続き質問タイムです。

Q1. 斬新な建物を創造する妹島氏にとって、「成瀬記念講堂」はどう感じられるか。

A1. 私だけでなく、日本女子大で学んだ人全員にとって思い出の場所だと思う。

そういうものが積み重ねられて作られた良い空間だと思う。

残っていくということが大事だ。

Q2. 照明に携わっているものとして、照明計画についての考えを伺いたい。

A2. 夕方以降は、専門家の意見も取り入れて照明計画を行っている。いろいろな計画があると思うが、私の場合は回遊性のある建築を作ろうとするので、全体が均質に明るくなる計画が多いと思う。

Q3. 学生時代は、建築の可能性や、建築にどのようなことを期待していたか。

A3. 小さい頃に母の雑誌で菊竹氏の「スカイハウス」を見て、こういう家があるのかと驚いた。それが記憶に残り、進路決定時に「建築」「住居」を志望し、入学後は先輩に勧められ図書室で雑誌を読んでいると「スカイハウス」に再会した。それから、面白いとのめり込み、つらいことはあっても続いている。

やり続けることが大切なので、頑張ってください。

Q4. ランスを6月に見て凄いと感じた。荒っぽいアメリカやフランスで実現するのは大変ではないか。

A4. 確かにコミュニケーションも拙くフラストレーションは溜まるが、出来るまでやるしかない。それでも、ランスではコンクリートの出来が素晴らしく、アメリカではクラフトマンシップがまだ残っている中部から職人が来てアルミスクリーンを製作したりしている。それぞれの場所から学ぶことは多い。

まだまだ、挙手が多くあがっていたのですが、時間の都合で終了です。



質疑応答の様子